

四旬節第三主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 4：5-42

イエスは水を汲みに来たサマリアに水を飲んでもらい、彼女と話をし始める。イエスは、彼女は五人の夫がいたと指摘し、ご自分をお遣わしになった方の御心を行って来たメシアである。イエスが与える生きた水は人の内で泉となる。真の礼拝をする者たちには、エルサレムでもない所で、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。彼女はイエスと話したことを人々に証言した。さらに、その町の多くのサマリア人はイエスの言葉を聴いて信じた。彼らは自分でこの方が本当に世の救い主であると分かったからです。

（二）カテキズムの響き： カトリック教会のカテキズム #2560-2561、586、1179、1215、2652； 又は、YOUCAT #189-190、195

祈りのすばらしさは、私たちが水を求めてやってくる井戸のほとりで、私たちに会いにキリストは来られます。キリストはまず私たちを捜しに来て、水を願われます。（ヨハネ 4:10）イエスの渇いておられる願いは、神の心の奥底から出てきているので、祈りとは神の渇きと私たちの渇きと出会いなのです。神は私たちがご自身を渴望することに、渇いておられます。私たちの懇願の祈りは、神の恵みへの信仰の応答、御ひとり子の渇きへの愛の応答にはほかなりません。

洗礼の秘跡は、水と霊による誕生を意味し、私たちを新しく創造された者として復活させるのです。実は、その聖霊は、源泉そのものであるキリストからその水を汲み取るようにと教えておられます。さらに、祈る人々の心のうちで永遠の命のために湧きてる生きた水です。キリスト教的な生活の中には、キリストが私たちに聖霊の水を飲ませたいと思っておられる水源が幾つかあります。復活したキリストの体は霊的神殿であって、そこから命を与える水がほとばしり出ます。イエスの肉体を殺害することは、救いの歴史が新しい時代に入ることを示す神殿の破壊を予告することになるのです。「あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る」（ヨハネ福音 4:21）。聖霊によってキリストに合体された私たちこそ、いける神の神殿であるので、霊と真理（ヨハネ福音 4:24）による礼拝は、特定の場所に限定されてはいません。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#252 洗礼の秘跡についての典礼と意味：

洗礼を授けるということは、水の中に「沈める」という意味です。

この秘跡は、また、聖霊によって新しく生まれさせ、新に造りかえる洗いと呼ばれます。

#244 霊と真理による礼拝とは：

キリストが神のまことの神殿なので、教会は典礼を挙げるのは、特定の場所に限定されていなくて、キリスト者と教会全体が聖霊の働きのもと、生ける神の神殿となり、共同体が集まることです。

最後の祈り：

救いの源である神よ、あなたは飢え渇く全ての人を癒すために、ひとり子イエスを遣わして下さいました。私達が疲れ、渇き、喜びと信頼を見失う時、命の水で私達を潤し、立ち上がらせて下さい。私達が、霊と真理によって貴方を礼拝する者と成り、また、信仰を渴望する洗礼志願者が、聖霊の恵によって罪の束縛から解放され、生ける神の神殿と成る事が出来ます様に。私達の主イエス・キリストによって。アーメン。